

毎日新聞
3月14日号に掲載されました。

新毎日

3月14日(水)

2018年(平成30年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話：(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

「相模原事典」発刊

涌田さん夫妻 二人三脚で詳細取材

相模原市南区相武台に住む文芸評論家の涌田佑さん(89)と妻で元小学校教諭の久子さん(83)が、古代から現代まで相模原の事跡をまとめた「相模原事典」(B5判282ページ、日相出版刊)を発刊した。郷土史家の夫妻が二人三脚で調べ上げた共著。地域の魅力と歴史的な変遷を立体的に浮かび上がらせた。

【高橋和夫】

地誌や自然、歴史、風俗、社寺、観光、出来事、人物など各分野から1300項目を取り上げ、相模原のことなら何でも分かるような『百科事典』に仕上げた。

涌田さんは作家・井伏鱒二の研究などの文芸評論家で、郷土史を研究し、市史編さん審議会委員も務めた。

久子さんは長年にわたり市内の小学校で教壇に立つ傍ら、郷土史を研究し、市史編さん審議会委員も務めた。

の項目でも欠落した部分は詳しく記述した。人物は主に故人だが、津久井もれていた相模原出身の人物を発掘して多くの著作を発表してきた。久子さんは長年にわたり市内に住んでいた。

の項目でも欠落した部分は詳しく記述した。人物は主に故人だが、津久井もれていた相模原出身の人物を発掘して多くの著作を発表してきた。久子さんは長年にわたり市内に住んでいた。

08年にご開帳となった津久井觀音靈場の5カ寺や国指定の縄文遺跡「勝坂遺跡」から出土の土器や遺跡近くの湧水地、照葉樹林、第二次大戦中に旧藤野町に疎開した藤田のおりを結び、この地が現在の無量光寺とされている。

平泉(岩手県)に島流しのまま没した祖父の墓を供養する「一遍聖絵」の一場面。一遍はこの後、伊予から落ち延びて当麻山(同市南区当麻)に隠れ住んだ家臣を訪ねた際にいおりを結び、この地が現在の無量光寺とされている。

二人三脚で「相模原事典」を発刊した涌田さん夫妻

相模原事典

「一遍聖絵」の一場面を表紙にした相模原事典

歴史や人物、1300項目

元の「相模経済新聞」に連載された。合併問題を収録し、4町の補訂もあって出版がずれ込んだ。カラー表紙は鎌倉時代、四国伊予(愛媛県)を拠点とした豪族・河野一族の跡取りで時宗の開祖となった一遍が、奥州

6020)。

000円。品切れの場合、モノクロの廉価本も刊行の予定。問い合わせは日相出版(042・748